

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【公開番号】特開2008-68249(P2008-68249A)

【公開日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【年通号数】公開・登録公報2008-012

【出願番号】特願2007-39982(P2007-39982)

【国際特許分類】

B 0 2 C 18/00 (2006.01)

B 0 2 C 18/14 (2006.01)

B 0 2 C 18/18 (2006.01)

B 0 2 C 18/22 (2006.01)

B 0 2 C 18/24 (2006.01)

【F I】

B 0 2 C 18/44 C

B 0 2 C 18/14 Z

B 0 2 C 18/18 Z

B 0 2 C 18/22

B 0 2 C 18/24

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月20日(2010.1.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

フレーム(11)に亘設した回転軸(13)に、複数のカッタ(17)を放射状に取り付け、このカッタ(17)の回転軌跡に沿って固定刃(26)を、上記フレームから立ち上げた保持体(21, 22, 23)を介して配設し、上記カッタ(17)が上向きに回転する側に投入口(28)を設けてなる破袋機。

【請求項 2】

上記カッタ(17)は回転方向に対して揺動可能になり、上記固定刃(26)は回転するカッタ(17)に対して向き合う方向に鉤状に曲がり、かつ、千鳥足状に配置した固定刃(26)とカッタ(17)とが交互に行き交うようにし、上記カッタ(17)および固定刃(26)の素材を板バネ材としてなる請求項 1 に記載の破袋機。

【請求項 3】

上記回転軸(13)に取り付けたカッタ(17)間に紐状物巻き付き防止棒(19)を亘設してなる請求項 1 または 2 に記載の破袋機。

【請求項 4】

上記カッタ(17)を、回転方向に対して揺動可能になる機構は、回転軸(13)に設けられたフランジ(14)にカッタホルダ(16)が揺動可能に軸支され、上記フランジ(14)に設けられた植え込みピン(15)とカッタホルダ(16)との間で揺動するようにしてなる請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の破袋機。

【請求項 5】

上記回転軸は、破袋機に過剰な負荷が掛かって停止したとき、または設定時間連続運転されたのち、設定された時間帯で逆転し、その後正回転するようにしてなる請求項 1 乃至

4 のいずれかに記載の破袋機。

【請求項 6】

上記破袋機 10 のゴミ袋投入口 28 の下方で、上記カッタ 17 が上向きに回転する側の下側に、一定間隔をあけてスリット 45 を設けたゴミ・ゴミ袋誘導板 44 a を配置し、このゴミ・ゴミ袋誘導板 44 a の後方に回転軸 31 を亘設し、この回転軸 31 に上記スリット 45 の位置に合わせてゴミ袋掻き出し鉤 38 を取り付けてなる請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の破袋機。

【請求項 7】

上記ゴミ袋掻き出し鉤 38 は、回転軸 31 の周囲に設けた取り付け台 33 と、この取り付け台 33 に設けたピンとトーションスプリング 40 を介して回転方向に付勢され、かつ、揺動可能に取り付けてなる請求項 1 乃至 6 のいずれかに記載の破袋機。

【請求項 8】

上記回転軸と並行に巻き付き防止棒 43 を亘設してなる請求項 1 乃至 7 いずれかに記載の破袋機。

【請求項 9】

フランジ (14 a, 18) に亘設したステー (19 a) に板バネ材を「への字状」に折り曲げたゴミ袋跳ね上げ部材 (K) を、その自由端が上記ステー 19 s の内側に位置するように片持ち状態に取り付けてなる請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載の破袋機。